コラム

1 2 3 Next

木村正人

欧州インサイドReport

ゼレンスキーは英雄か、世界を大戦に巻き込むポピュリストか

2022年02月27日（日）21時12分

464 10

陥落間近といわれるキエフから国民を鼓舞し続ける（あるいはその芝居を続ける？）ゼレンスキー（2月27日）
Ukrainian Presidential Press Service/REUTERS

＜元コメディアンの素人政治家と軽んじられがちなウクライナのゼレンスキー大統領は、ロシアの侵攻に対して誰も予想しなかったほどの驚異的な善戦を続けている。その正体は＞

［ロンドン発］質量ともに圧倒的に優位に立つロシア軍を相手に驚異的な健闘を続けるウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領（44）を支援する国際的な動きが強

まっている。米欧諸国は26日、ロシアの銀行の一部を国際的な決済ネットワークSWIFTから排除することを決定する一方、ウクライナへの攻撃兵器の輸送を加速させた。

ボリス・ジョンソン英首相は同日、ゼレンスキー氏と電話会談し、「ゼレンスキー氏とウクライナ国民の驚くべきヒロイズムと勇気を称賛する。ウラジーミル・プーチン露大統領は事前に計算していた以上に大きなウクライナの抵抗に遭っている」と伝えた。外交・経済的にロシアを国際社会から完全に孤立させることが必要との考えで両首脳は一致した。

広告

ゼレンスキー氏と足並みが乱れていたジョー・バイデン米大統領も25日、電話で首脳会談を行い「自国を守るために戦うウクライナの人々の勇敢な行動を称賛する」と激励した。そのゼレンスキー氏は同日、首都キエフの大統領府前で首相、軍関係者らに囲まれ、「皆ここにいて私たちの独立と国を守っている」と語る動画をSNSに投稿した。

26日にもSNSで「私はここにいる。私たちは武器を捨てない。祖国を守る。武器は私たちの力だ。ここは私たちの土地だ。私たちの祖国。私たちの子供たち。私たちは彼ら全員を守る」と背水の陣で戦う覚悟を表明した。ゼレンスキー氏は祖国を捨て逃亡したというロシアのフェイクニュース攻撃に対抗するためだ。

兵站でつまずいたロシア軍

米シンクタンク、戦争研究所によると、ロシア軍は機械化部隊、空挺部隊の攻撃でキエフを包囲し、孤立させる初期の作戦に失敗。士気と兵站の問題に直面している。ウクライナ北部国境からの侵攻計画と作戦実行が不十分だったためとみられる。短期決戦でキエフを包囲し、「一番の敵」ゼレンスキー氏を跪かせたかったプーチン氏にとっては大誤算である。

KGB（旧ソ連国家保安委員会）出身のプーチン氏は「キエフには従うか、国を滅ぼすかの二択しかない。ゼレンスキー氏は東部紛争の停戦を目指すミンスク合意のすべてが気に入らないと言っている。好きであれ嫌いであれ、従うのがお前の義務。それが私の美学だ」と恫喝し、ウクライナが聞き入れないと自らミンクス合意を破棄してウクライナに全面侵攻した。

親露派分離主義者と交渉のテーブルに着くことを拒否してきたゼレンスキー氏は「ウクライナはプーチンの所有物ではない」と徹底抗戦の構えだ。クレムリンは東部の親露派支配地域を「トロイの木馬」としてウクライナに埋め込み、今後も同国に影響力を行使する思惑が透けて見えるからだ。

次のページ　予想外の抵抗

1 2 3 次のページ

コラム

Prev 1 2 3 Next

木村正人

欧州インサイドReport

ゼレンスキーは英雄か、世界を大戦に巻き込むポピュリストか

2022年02月27日（日）21時12分

464 10

元コメディアンのゼレンスキー氏とウクライナ軍がここまで抵抗すると事前に予想した人は少なかった。

ゼレンスキー氏はウクライナのドニプロ近郊でユダヤ系科学者の家庭に生まれた。ソ連が崩壊し、祖国が独立した時、12歳。イスラエル留学の機会もあったが、父親の反対で断念した。大学では法律を学んだ。17歳の時、コメディーTV番組に参加し、その後、ラブコメ映画にも出演するようになる。

広告

架空の大統領から本物に

ロシアがウクライナのクリミア半島を一方的に併合した翌年の15年にTVドラマ番組『サーバント・オブ・ピープル（筆者仮訳：国民への奉仕者）』を制作、自ら高校教師役を演じる。この教師が政府の腐敗撲滅を叫ぶ様子を生徒がこっそり撮影しネットに投稿したところ爆発的に拡散し、予期せずウクライナ大統領に就任するという政治風刺劇だ。

ドラマではウクライナが実際に直面する問題が取り上げられた。視聴者の90%がゼレンスキー氏の演じる大統領に共感を持った。有権者はゼレンスキー氏が祖国の救世主になるという幻想に酔い、現実と仮想の境をなくしてしまう。2019年のウクライナ大統領選に出馬し、決選投票で現職のペトロ・ポロシェンコ大統領をトリプルスコアで退けた。

ゼレンスキー氏は13～14年の親欧米市民運動「マイダン革命」の支持者で、親露派分離主義者による東部紛争では前線で戦うウクライナ軍に寄付している。14年のクリミア併合をきっかけに同国ではナショナリズムが高まり、ゼレンスキー氏はSNSを通じて、そうした国民感情を味方につけてきた。

一方でゼレンスキー氏に対しては、腐敗撲滅を口実にオリガルヒ（新興財閥）から奪った権力を自分に集中させようとしているだけとの懸念もくすぶり続けている。大統領就任2カ月で、ドナルド・トランプ前米大統領がバイデン氏とウクライナのガス会社役員を務める息子のハンター氏を調査させようとゼレンスキー氏に圧力をかけていたという疑惑も浮上した。

ロンドンに高級不動産を所有

ゼレンスキー氏は「外国の選挙に干渉したくない」としてトランプ氏の圧力を否定する。そのせいかどうか分からないが、ゼレンスキー氏とバイデン氏の関係はギクシャクする。バイデン氏は昨年5月、バルト海の海底を通ってロシアとドイツを結ぶ天然ガスパイプライン、ノルドストリーム2に対する制裁を解除し、ゼレンスキー氏を失望させる。

コロナ危機でウクライナの犠牲者は約10万5500人。人口100万人当たりの死者は2437人で、ロシアの2403人や欧州最大の被害を出したイギリスの2354人を上回る。ワクチン接種回数も100人当たり73回に届かず、経済も落ち込んだ。昨年10月には、ゼレンスキー氏と側近がロンドンの高額不動産を所有するオフショア企業ネットワークの受益者だったことが発覚する。

次のページ　批判かわすプーチン敵視政策

前のページ　1　2　3　次のページ

コラム

木村正人

欧州インサイドReport

ゼレンスキーは英雄か、世界を大戦に巻き込むポピュリストか

2022年02月27日（日）21時12分

464 10

コロナ対策、経済対策、腐敗撲滅に失敗したという非難をかわすため、ゼレンスキー氏はロシア敵視政策を強める。ウクライナ当局は昨年5月、プーチン氏と親交が深い親露派の野党政治家ビクトル・メドベチュク氏を国家反逆容疑で拘束し、裁判所が自宅軟禁に置いた。

同年8月には欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）加盟国など40カ国余の代表を招き、クリミア半島返還を目指す国際枠組み「クリミア・プラットフォーム」の設立会議をキエフで開いた。狼の檻の中に落ちている骨を「ロシア語を話す子供のもの」と冗談を言う超国家主義者の義勇軍大尉にゼレンスキー氏は「ウクライナの英雄」の称号を与えている。

広告

プーチン氏は昨年中にゼレンスキー氏との対話路線を諦め、強硬路線に転換したとされる。

ゼレンスキー氏は髭を剃らず、ミリタリーグリーンのTシャツを着ている姿をSNSに投稿し、自らを「プーチン氏のエナミー・ナンバーワン」と称して"ゼレンスキー劇場"を演じ続けている。「ゼレンスキー氏は平和をもたらすと公約して当選したが、大統領就任3年目にして戦争に突入してしまった」と批判する声もある。

しかし、プーチン氏のウクライナ侵攻でゼレンスキー氏批判は影を潜めた。ゼレンスキー氏はウクライナをプーチン氏の魔手から守る国家の英雄なのか。それとも祖国ばかりか、世界を戦争に巻き込む破壊的なポピュリストなのかは、歴史の評価を待たねばなるまい。

＜関連記事＞

・「ロシア人よ、地獄へようこそ」ウクライナ市民のレジスタンスが始まった

・ウクライナに「タンクマン」現る　生身でロシア軍の車列に立ち向かう

前のページ　1　2　3

464　10

この筆者のコラム

プーチンに戦争を決断させた「原油価格のロジック」と、その酷すぎる「計算違い」 2022.03.19

ロシア軍から首都を「死守」せよ！ 抵抗組織リーダーが語る「キエフ攻防戦」の現実 2022.03.16

プーチンに自国を売り渡し、「戦争の共犯者」に成り下がった「欧州最後の独裁者」 2022.03.12

プーチンは本気で「歓迎」されると思っていた…幻想を打ち砕かれ、本格攻撃へ 2022.03.08

プーチンの「取り巻き」が見せる反逆の兆候…「独裁者」の足元が崩れ始めた 2022.03.05

ゼレンスキーは英雄か、世界を大戦に巻き込むポピュリストか 2022.02.27

国益よりも30年に及ぶNATOへの怨念で攻めるプーチンの怖さ 2022.02.25